

第37回

うつのみやこども賞だより

令和2年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『江戸の空見師嵐太郎』

佐和みずえ／著（フレーベル館）



令和3年3月7日

～読んだ本の感想より～

- 空見をとおして1人1人のかかわり、せいかく、思い出、考え方など、さまざまなことをえられておもしろかった。
- 今はテレビでだれでも天気が分かるけど、昔は一切分からずに生活したりしていて、すごいなあと思う。イソ吉のように、いじめられている子を助けようとする嵐太郎はすごいな。
- 嵐太郎が空見師をやめると言い出して家出してしまったときはどうなってしまうんだろうとハラハラしたけど、また始めて良かったです。
- 弱いものいじめは絶対だめということがこの本で深く感じた。
- だれかのために嵐太郎が空見をするのがとてもかっこいいと思ったし、とてもそんけいできるなと思った。

『イズナくんは今日も、』 櫻いよいよ／著（PHP 研究所）

- 飯綱くんが春日に徐々に心を開いていく姿がえがかれていて、気むずかしいと思っていた飯綱くんがどんどん可愛く思えてきました。多分、飯綱くんと春日には縁が見えるだろうなと思いました。
- 私にも縁がつながっているのだろうか、また、それはどんな人物なのかなと思いました。
- 最初と最後では、いづなくんの印象ががらりと変わった。
- さいしょは1人だったいづなくんが、春日やいろんな人と仲良くなるのがとてもおもしろかった。
- 恋愛の話、友達の話、家族の話などがありましたが、どの章の話も心に響くものでした。
- 「縁」が見えるという設定がおもしろかった。

『キャンドル』 村上雅郁／作（フレーベル館）

- 身近に男の子だけど服装は女の子という子がいる。螢一は翔真の格好に反対することなく、良い感じに翔真の自分らしさを尊重していてとても偉いと思ったし、翔真は自分なりに自分らしさを見つけられて尊敬できました。
- 翔真みたいな、男の子だけど女の子の服を着たいって子もいるということがわかって、身近にいたら友達になってみたいと思った。
- 昔の友だちというてんかいいおどろいた。
- 私は私らしく生きていくのが一番なんだということに気づきました。
- 今の世の中にある問題をお話をとおしてしり、なおしたいという気持ちになることができた。

『白き花の姫王』 みなと堇／著（講談社）

- 描写が1つ1つとてもこまかくて、昔にタイムスリップしたように感じられて、とてもおもしろかった。
- 最初、表しを見て、外国の童話かと思ったら、今から約1300年前の奈良時代の話だった。話が外国風で少しへんなかんじだったけれど、自分が本の中にはいるようでよかったです。
- 難しいけど面白い本でした。言葉が難しかったけれど、ストーリーが面白いので読み進められました。
- ふつうにはしゃべれず、歌をよむことしかできないという設定がおもしろい。
- 最後の幻恍とヴァジュラのバトルが心に残った。